

北神けいろいろの国政報告：8月号

いつも大変お世話になっています。

○先月号でもお伝えしたように、政治空白がつづく中で、菅総理には一日でも早く辞任していただき、「挙国一致」の新しい体制をつくり直さなければなりません。

こうした考えから、若手の同志と一緒に「菅総理の即時退陣を求める」という文書を携えて、官邸に乗り込みました。総理も官房長官も会ってもらえなかったので、仙谷官房副長官に直接申し入れました。その趣旨は次のとおりです。

○菅総理の即時退陣を求める

「今回の佐賀・玄海原発の再稼動をめぐり、菅内閣の機能は完全に崩壊した。菅総理は一旦自ら「浜岡原発以外は再稼動させる」と表明した。これを受け、海江田経済産業大臣は安全性を確認の上、玄海原発を再稼動させようとした。しかしながら、先日の予算委員会で、総理は海江田大臣の梯子をはずす形で、ストレステストの導入を再稼働条件として突如打出した。

これは、政策の正否以前の問題として、もはや総理が内閣の一体的運営を自ら放棄したと言える。このような政府に対する信頼失墜は、震災被災地の住民にも蔓延しており、もはや菅総理の下での被災地復旧・復興、福島原発事故の早期収束は実現不可能と断ぜざるをえない。

それ故、菅総理の即時退陣を強く求めるものである。」

○当初、総理辞任の「三つの条件」(第二次補正予算、特例公債法案、再生可能エネルギー法案)が整うまで、大人しく待とうと思っていました。しかし、辞めると言っている総理が、新しい政策を、誰にも相談せず打ち出すのを見て、もう待てません。

一体、どこの国が辞める総理と真面目に外交交渉するのでしょうか。どこの自治体がそのような総理に政策提言を行うのでしょうか。役所も、辞めると言った総理の足元を見ます。実際、今や、新しい政策を提言しても、政府は動こうとしません。

○「今辞めさせて、政治空白が生じたらどうするのか」という批判もあります。しかし、もう既に空白が生じているのです。「辞めさせるだけではなく、次の総理を誰にするのかも考えるべきではないか」という声もあります。私個人の考えは当然ありますが、そんなことを言い出しはじめたら、各議員それぞれ立場が異なるため、総理を辞めさせる動きが鈍ります。

私だって、菅総理が辞めると言い出さなかったら、しっかり支えるつもりでした。しかし、「綸言汗の如し」であります。自ら総理としての機能を麻痺させてしまった以上は、早く辞めて、新しい体制に変わらなければいけません。